

## 平成12年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

### 1 一般事項

#### (1) 理事会の開催

##### ア 第1回理事会

○開催年月日 平成12年4月27日(木)

○開催場所 兵庫県津名郡東浦町夢舞台1番地 淡路夢舞台国際会議場

○議案等

##### ・報告事項

報告第1号 財団法人国際エメックスセンターの設立に関する件

報告第2号 基本財産の受入に関する件

報告第3号 理事の選任に関する件

##### ・議案

議案第1号 副理事長及び専務理事の選任に関する件

議案第2号 顧問、科学・政策委員会委員の選任に関する件

議案第3号 諸規程の制定に関する件

##### イ 第2回理事会

○開催年月日 平成12年11月23日(木)

○開催場所 兵庫県津名郡東浦町夢舞台1番地 淡路夢舞台国際会議場

○議案等

##### ・議案

議案第1号 評議員の補欠選任に関する件

議案第2号 科学・政策委員会委員の補欠選任に関する件

議案第3号 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会事務所の設置に関する件

##### ・報告事項

報告第1号 財団法人国際エメックスセンターの環境庁と外務省との共管法人化に関する件

##### ウ 第3回理事会

○開催年月日 平成13年2月23日(金)

○開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第2会議室

○議案等

##### ・議案

- 議案第1号 寄附行為の改正に関する件
- 議案第2号 字句修正権限の委任に関する件
- 議案第3号 平成12年度事業計画及び収支予算書の変更に関する件
- 議案第4号 平成13年度事業計画（案）に関する件
- 議案第5号 平成13年度収支予算（案）に関する件
- 議案第6号 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議開催準備に関する件

・報告事項

- 報告第1号 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の準備について
- 報告第2号 会員の入会状況について

(2) 評議員会の開催

ア 第1回評議員会

- 開催年月日 平成12年4月27日（木）
- 開催場所 兵庫県津名郡東浦町夢舞台1番地 淡路夢舞台国際会議場
- 議案等
  - ・報告事項
    - 報告第1号 財団法人国際エメックスセンターの設立に関する件
    - 報告第2号 基本財産の受入に関する件
    - 報告第3号 顧問、科学・政策委員会委員の選任に関する件
  - ・議案
    - 議案第1号 理事の選任に関する件

イ 第2回評議員会

- 開催年月日 平成13年2月23日（金）
- 開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第2会議室
- 議案等
  - ・議案
    - 議案第1号 寄附行為の改正に関する件
    - 議案第2号 平成12年度事業計画及び収支予算書の変更に関する件
    - 議案第3号 平成13年度事業計画（案）に関する件
    - 議案第4号 平成13年度収支予算（案）に関する件
    - 議案第5号 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議開催準備に関する件
  - ・報告事項
    - 報告第1号 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の準備について

### (3) 第1回科学・政策委員会の開催

○開催年月日 平成12年8月23日(水)

○開催場所 神戸市中央区 神戸商工会議所 第2会議室

○議 題 等

・委員長／副委員長の選出

委員長に熊本信夫北海学園大学学長を、副委員長にベン・ヤンソンストックホルム大学 名誉教授と柳哲雄九州大学応用力学研究所教授を選出

・議 題

①財団法人国際エメックスセンターの設立と科学・政策委員会について

a 設立趣意書について

b 寄附行為

c 科学・政策委員会規程について

②科学・政策委員会委員長の選出について

③第5回エメックス会議(EMECS2001)について

a 開催日程及び開催場所について

b 会議の趣旨、メインテーマ、分科会テーマについて

c 開催準備スケジュールについて

④第6回以降のエメックス会議について

⑤財団法人国際エメックスセンターの今年度事業について

⑥財団法人国際エメックスセンターの今後事業に対する提案について

## 2 事業の実施

### (1) 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 海域環境保全・創造策に関する調査・研究の実施 (関西電力?委託事業)

閉鎖性海域にあつては、藻場、干潟、自然海浜等の貴重な自然環境が徐々に減少を続けており、これまでの開発等で消失した自然環境を取り戻すことが必要となっている。そこで海外における環境創造手法との比較を行い、新たな閉鎖性海域の環境保全・創造手法等の調査・研究を行った。

また、報告会を開催し、研究の成果を発表した。

①テーマ 平成11年度海域環境保全・創造策に関する調査－米国における沿岸域ミティゲーション事例調査－

②開催日 平成12年6月20日(火)

③場 所 大阪関電会館

④講 師 中辻 啓二氏（大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻社会システム講座国土開発保全研究領域教授）

イ 尼崎 21 世紀の森構想（仮称）プラン策定調査（兵庫県企業庁委託事業）

尼崎臨海地域は、阪神工業地帯の一翼を担い、製鉄・化学工業・非鉄金属などの重工業を中心に発展し、我が国の経済を牽引してきた工業地域であるとともに、埋立などにより多くの自然を失い、公害問題など環境に多大の負荷を与えてきた地域である。しかし、近年、産業構造の再編等による工場等の遊休地化が進み、地域活力が著しく低下するなど、地域の再生が重要な課題となっている。

そこで、この地域が、21 世紀に向けた新しい都市として再生していくためには、このような失われた自然の回復や新たな環境修復、創造の視点を持つとともに、単に都市アメニティとして自然をとらえるのではなく、自然と人と水が共生する都市環境の構築が必要である。

そのため、森の中の都市をイメージしながら都市の再生を図るため、「尼崎 21 世紀の森構想（仮称）」について次の事項についてその調査検討を行い、「兵庫県が設置した尼崎 21 世紀の森（仮称）検討プロジェクトチーム委員会」での検討に供する とともに調査結果を報告した。

・調査検討事項

- ①まちの現状・取り組み・課題
- ②環境の現状・取り組み・課題
- ③尼崎臨海地域への要請と方向性
- ④尼崎臨海地域のまちづくりと森づくりのあり方
- ⑤尼崎臨海地域の森づくり試案
- ⑥尼崎臨海地区の森づくり試案
- ⑦尼崎臨海地域の整備手法と事業化戦略
- ⑧森の効果の検証
- ⑨尼崎 21 世紀の森づくりにおける検討課題

ウ 臨海部における環境回復・創造方策に関する調査・研究（(財)兵庫県環境クリエイトセンター委託事業）

臨海部は、古くから生産活動の用に供するために、海面の埋立が様々に進められてきた。この埋立により、水質の悪化、生物の生息環境等の生態系の変化、自然景観の変化、海とのふれあいの場・漁場減少等多岐にわたる環境変化をもたらすこととなった。

現在、環境の保全に対して、当初の水質改善等、公害対策中心のものから生物多様性の確保、健全な水循環の回復、リサイクルの推進、豊かな自然とのふれあいの場の確

保など、環境創造を目指したものに变化してきた。そのため、臨海部でも21世紀に向けて、次世代に引き継ぐ良好な環境の回復・創造が強く望まれている。

そのため学識経験者等による調査検討会を設置し、次の調査研究を行った。

・調査検討事項

- ①臨海部における環境回復・創造方策の最新情報収集及び解析、検討
- ②モデル地域におけるケーススタディの実施

・調査検討会

①調査検討会委員

座長	上嶋 英機	工業技術院中国工業技術研究所海洋環境制御部長
委員	大塚 耕司	大阪府立大学工学部海洋システム工学科 助教授
委員	川井 浩史	神戸大学内海域機能教育研究センター長・教授
委員	上月 康則	徳島大学工学部大学院工学研究 助教授
委員	木幡 邦男	国立環境研究所地域環境研究グループ海域保全研究チ

ーム総合研究官

委員	中村 由行	運輸省港湾技術研究所 海水浄化研究室長
委員	古城 方和	兵庫県立公害研究所 第2研究部長

②調査検討会の開催

・第1回調査検討会

開催年月日 平成12年9月29日(金)

開催場所 尼崎市

- 検討内容
- ・全体計画の検討
  - ・尼崎臨海部の現状と課題
  - ・回復・創造の方向性と回復目標の設定
  - ・ケーススタディの進め方

・第2回調査検討会

開催年月日 平成12年11月2日(金)

開催場所 神戸市中央区

- 検討内容
- ・尼崎臨海域の回復・創造の方向性と回復目標の設定につい

て

- ・ケーススタディの進め方について

・第3回調査検討会

開催年月日 平成12年2月9日(金)

開催場所 神戸市中央区

検討内容 ・ 尼崎臨海域の環境の現状と課題の整理について  
・ 検討フレーム及びケーススタディ?の進め方について  
・ 平成12年度臨海部における環境回復・創造事業に関する  
調査報告書（目次案）について  
・ その他

・ 第4回調査検討会

開催年月日 平成12年3月29日（木）

開催場所 広島県呉市 工業技術院中国工業技術研究所

検討内容 ・ 第3回検討会議事録と課題の整理について  
・ 平成12年度臨海部における環境回復・創造事業に関する  
調査報告書（案）について  
・ 平成13年度以降の進め方について  
・ その他

エ 油処理剤等環境影響に関する調査（環境省地球環境局委託事業）

現在、「海洋汚染防止及び海上災害の防止に関する法律」における油及び有害液体物質による海洋の汚染の防止のために使用される薬剤の基準については、国土交通省令・環境省令により急性毒性等に関する基準が設けられており、この基準に合致した約70種類の油処理剤並びに油ゲル化剤について型式認定が行われている。

大規模な油流出事故等においては、迅速な回収処理作業が被害の拡大を阻止する上で重要となり、油処理剤が大きな役割を果たすことが想定されるが、環境への影響に関する知見が十分でない。

そのため、既存の油処理剤及び油ゲル化剤の海洋環境への影響をあらゆる角度から確認し、外国等の知見と比較しつつ、これらの情報を自治体等に提供するとともに、現在の基準も併せて検討することにより、油等の流出事故等に適切に対応するための学識経験者による調査検討会を設置し、調査、検討を行なった。

・ 調査検討会

①調査検討会委員

座長 岡田 光正 広島大学工学部環境基礎学講座教授

委員 黒崎 一己 海上保安試験研究センター化学分析課鑑定官

委員 小倉 秀 海上災害防止センタ?調査研究室長兼防災訓練所次

長

委員 越川 篤志 石油連盟油濁対策部次長

委員 小松 輝久 東京大学海洋研究所助教授

委員 小山 次朗 瀬戸内海区水産研究所水質化学研究室長

委員 牧 秀明 国立環境研究所水圏環境部研究員  
委員 若林 明子 東京都環境科学研究所基盤部長

オブザーバ

国土交通省総合政策局環境・海洋課海洋室

国土交通省海事局検査測度課

海上保安庁警部救難部海上防災課

水産庁資源生産推進部漁場資源課

油処理剤懇話会

油ゲル化剤懇話会

## ②調査検討会の開催

### ・第1回調査委員会

開催年月日 平成13年1月31日(水)

開催場所 東京都 法曹会館

検討内容 ・委員の構成と座長の選出

・調査目的と背景

・全体計画

・平成12年度調査計画について

・油処理剤及び油ゲル化剤の環境影響に関する知見の収集に

ついて

・生態毒性試験方法について

・その他

### ・第2回調査委員会

開催年月日 平成13年3月13日(水)

開催場所 東京都 サンケイ会館

検討内容 ・平成12年度油処理剤等環境影響に関する調査検討会(第1

回)の議事要録及び課題のまとめ

・平成12年度油処理剤等環境影響に関する調査報告書(案)

・生態毒性試験について

・その他

## オ 第5回エメックス会議の開催準備

1990年に第1回エメックス会議の開催から11年目にあたり21世紀という新しい世紀の初のエメックス会議となる第5回エメックス会議(EMECS2001)を2001年神戸・淡路で開催する

そのため、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む多くの諸機関、研究者の参加を得て、自然科学だけでなく社会科学も含むあらゆる科学の英知を結集し「自然や生態系と人間社会の調和ある持続的発展」を目指した意義ある会議にするため、「第5回閉鎖性海域環境保全会議実行委員会事務局」を設置するとともに所要の準備を進めた。

・第5回世界閉鎖性海域環境保全（EMECS2001）会議準備会の開催

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議開催準備を進めるため次により準備会を開催し、第1回アナウンスメントの内容を決定し、国内外に広報することとした。

①第5回世界閉鎖性海域環境保全会議準備会委員一覧

【学識経験者】

上嶋 英機	工業技術院中国工業技術研究所海洋環境制御部長
川井 浩史	神戸大学内海域機能教育研究センター長・教授
楠井 隆史	富山県立大学短期大学部環境工学科教授
熊本 信夫	北海学園大学学長
高山 進	三重大学生物資源学部教授
津野 洋	京都大学環境質制御研究センター教授
細川 恭史	運輸省港湾技術研究所海洋環境部長
松田 治	広島大学生物生産学部教授
三村 信男	茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
渡辺 正孝	国立環境研究所水圏環境部長

【経済界】

清水 晃	神戸商工会議所環境対策専門委員会委員長
田中 英俊	関西広域連携協議会事務局長

【関係団体】

安部 栄治	(財)ひょうご環境創造協会専務理事
島谷耕次郎	(財)兵庫県クリエイトセンター専務理事
中嶋 邦弘	(財)国際エメックスセンター専務理事
中村 良明	環境事業団地球環境基金部助成課長

【関係機関】

高橋 牧人	外務省国際社会協力部地球規模問題課長
浅野 能昭	環境庁瀬戸内海環境保全室長
小林 悦夫	兵庫県環境局長
児島 猛	神戸市環境局参事

②開催年月日



平成 12 年 8 月 14 日 (月)

③開催場所

神戸市中央区 ひょうご国際プラザセミナー

④検討事項

- ・会議趣旨について
- ・第 5 回 EMECS 会議の開催日程及び開催場所について
- ・メインテーマ、分科会テーマについて
- ・第 5 回 EMECS 会議の開催準備・運営体制について
- ・今後の開催準備スケジュールについて
- ・第 1 回アナウンスメントについて
- ・その他

⑤準備会でとりまとめた第 1 回アナウンスメント概要

- ・メインテーマ (案)
  - 21 世紀の人類・自然共存のための沿岸域管理に向けて
- ・分科会テーマ (案)
  - ?閉鎖性海域におけるモニタリングと環境情報
  - ?陸域と海域の相互作用
  - ?環境回復・創造
  - ?環境政策における参加と連携と総合管理 (Governance) にむけたアプローチ
- ・環境教育と実践活動
- ・特別分科会
  - EMECS 活動 10 年の総括と 21 世紀における活動戦略
- ・会期
  - 2001 年 11 月 19 日 (月) ?23 日 (金)
- ・サイドプログラム
  - ?市民フォーラム
  - ?環境回復・創造技術展の開催
  - ?国際環境教育用教材展
- ・論文募集
  - 2001 年 1 月頃

チ

・広報活動

①第 1 回アナウンスメントの発行と配布

第 5 回世界閉鎖性海域環境保全 (EMECS2001) 会議準備会の決定を受け、第 1 回アナウンスメントを作成し、国内外関係者・関係機関に配布し、会議開催の広報に努

めた。

②瀬戸内海研究フォーラムでパネルを展示

センターでは平成12年8月25日から26日にかけて、岡山県倉敷市の倉敷公民館で開催された「平成12年度瀬戸内海研究フォーラム in 岡山（瀬戸内海研究会議主催）」でセンターの活動、第5回エメックス会議に参加を呼びかけるパネル展示を行った。

③学会誌等における掲載

第5回世界閉鎖性海域環境保全（EMECS2001）会議開催を広報するため、関係学会誌等に第1回アナウンスメントの掲載を依頼し、広報した。

・事務局の開設

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の準備のため同実行委員会の事務所を平成12年10月1日当センター内に設置した。

カ エメックス国際セミナー「チェサピーク2000ーリニューアルされたチェサピーク湾プログラムについて」を開催

米国東部に位置するチェサピーク湾は、メリーランド州をはじめとする6つの州に囲まれている北米の代表的な閉鎖性海域です。チェサピーク湾の環境管理は、1983年と1987年（1992年に改訂）に連邦政府並びに周辺州政府ワシントン市の間で署名された協定に基づき実施されてきた。今回当該協定が2年にわたる見直し作業を経て今年6月28日に調印されたことを受け、本合意に関係した米国の科学者、行政及び立法の関係者を招き、その意義と課題及び市民参加のあり方、新たな統合管理のあり方について報告、意見交換するためのセミナーを開催した。

○開催年月日

平成12年8月22日（火）

○開催場所

神戸市中央区 ひょうご国際プラザ3階ホール

○参加者

約100名

○開催結果

熊本信夫北海学園大学学長をコーディネーターに、チェサピーク2000の合意に努めたワシントン大学環境科学センター所長のウェイン・ベル氏、環境政策・研究管理事務所長のデビッド・キャロル氏、メリーランド州環境省長官ジェーン・ニシダ氏の講演、報告が行われ、その意義と課題及び市民参加のあり方、新たな統合管理のあり方について出席者との間で積極的な議論が行われた。

○開催結果報告書の発行

セミナーの開催結果を報告書としてとりまとめ関係者に配布した。

キ 海外エメックス国際シンポジウムの開催 (地球環境基金助成事業)

アジア諸国における閉鎖性海域の環境保全と持続可能な適正利用に関して、中国・韓国・日本を加えたASEAN諸国から研究者、行政関係者、企業関係者、NGO団体等が一同に集まり、各国の研究成果を発表し、討議、意見交換・交流を行うため、国際連合環境計画 (United Nations Environment Programme (UNEP)) とともに、「沿岸海洋生態系の保護と管理に関する国際シンポジウム (通称:エメックス国際シンポジウム in バンコク) (International Symposium on Protection and Management of Coastal Marine Ecosystems)」を開催した。

○開催趣旨

我々が住むアジア太平洋地域では、その人口の60%以上が沿岸域に住んでおり、この人口を養うのに不可欠な資源は、その多くを沿岸海洋生態系から享受している。

しかしながら、その増大する開発圧力に対して、現在、この生態系は警戒すべき速度で崩壊していることが数多く報告されている。このような状況において、沿岸海洋生態系を保護し適切に管理することが、この地域における沿岸資源の合理的な利用と持続的な発展のための重要な要件であるとの認識から本シンポジウムを開催された。

○開催年月日

2000年12月12日及び13日の2日間

○開催場所

タイ王国バンコク市内のサイアム・シティ・ホテル

○特別協力

・タイ海洋政策及び回復に関する委員会(The Thai Marine Policy and Restoration Committee)

・タイ科学技術環境省(Office of Environmental Policy and Planning (OEPP) , Ministry of Science, Technology and Environment)

・チュラロンコン大学(Chulalongkorn University)

・Southeast Asia Programme in Ocean Law, Policy and Management (SEAPOL)

○開催結果

その結果、東アジア地域の国々や Reef Check Foundation、WESTPAC、South Asia START Regional Center 等の関係国際機関を代表する延べ38名の発表とグループ討論が3つの分科会で行われた。さらに、各分科会の内容を包括するパネル討論とシンポジウムのとりまとめがなされ、2日間で、Asian Institute of Technology に在籍する東アジア各国の学生やバンコク市民、学識経験者、政策立案者等、延べ約200名の参加があった。

○開催結果報告書の発行

シンポジウムの開催結果を報告書としてとりまとめ関係者に配布した。

## ク 閉鎖性海域環境保全活動支援事業

閉鎖性海域の環境保全と適正利用を目的とする学術的な会議等に対して、助成を行い、他の関連機関との関係を築くとともに、会議等の成果をセンターの活動に反映させた。

### ・平成12年度に助成した事業

- ①対象団体名 瀬戸内海研究会議
- ②対象事業 瀬戸内海研究フォーラム in 岡山
- ③開催年月日 平成12年8月25日～26日
- ④開催場所 岡山県倉敷市 倉敷公民館
- ⑤メインテーマ 21世紀 瀬戸内海の創成に向けて
- ⑥セッションテーマ
  - ・瀬戸内海の現状と今後の問題提起
  - ・瀬戸内文化の継承と新たな文化の創造
  - ・瀬戸内海の保全・再生・創造
  - ・21世紀の瀬戸内研究の課題

## (2) 情報収集整備活用事業

### ア 閉鎖性海域の環境の現況に関する資料収集とデータベース作成

内外の閉鎖性海域について環境の現況に関して自然科学及び社会科学的基礎資料を収集し、これをデータベース化し、内外の閉鎖性海域の研究者の情報共有化を図るとともに効率的な研究の実施を推進する。

- ・日本の閉鎖性海域情報のデータベース化
- ・海外の閉鎖性海域環境情報の収集・整理
- ・閉鎖性海域の環境保全に関する施策情報のデータベース化

### イ エメックスニュースレターの発行

閉鎖性海域に関する情報交換を促進するため、投稿論文、第5回エメックス会議の準備状況、会議開催結果、閉鎖性海域環境保全団体の紹介、関連国際会議開催情報等を掲載した機関紙「エメックスニュースレター」を発行した。

### ・第15号

- ①財団法人国際エメックスセンター設立式典・記念講演会
- ②設立式典貝原理事長あいさつ

- ③淡路花博
- ④記念講演会「海の利用と保全を考える」(要旨)
- ⑤財団法人国際エメックスセンター?役員等名簿
- ⑥図書紹介「生物多様性のためのインセンティブ方策ハンドブック」 OECD

#### 環境局

- ⑦イベント情報 テクノオーシャン2000
- ⑧財団法人国際エメックスセンター?の活動について
- ⑨事務局からのおしらせ

#### ・第16号

- ①新チェサピーク湾協定
- ②南西クリミア(黒海)の沿岸近くに保護区を作る
- ③ピューゼット湾の保護と改善にむけて
- ④会議情報
- ⑤図書情報
- ⑥財団法人国際エメックスセンターの活動について
- ⑦事務局からのおしらせ

#### ・第17号

- ①第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会の発足
- ②第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会組織図
- ③北海とイギリス海峡の環境計画にむけて
- ④北海道沿岸域における衛生画像の活用
- ⑤メッドコ?スト研修について
- ⑥環境省からの報告
- ⑦平成12年度JICA委託研修事業
- ⑧会議情報
- ⑨図書情報
- ⑩財団法人国際エメックスセンター?の活動について(8月?12月)

#### ウ 情報収集・提供システムの整備・運営

世界の閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用に関する情報を収集、加工するとともに、インターネットを通じて情報の提供・交流を行うWEBサーバー、メールサーバ?システムの適正な運用、管理を行った。

併せて平成12年度は、研究者データベースや閉鎖性海域環境情報データベースについて一層の充実を図った。

- ①セミナー、シンポジウム結果報告書のデジタル化
- ②ニュースレターのデジタル化
- ③国内外の海洋・沿岸研究ペ?ジへのリンク先の拡充
- ④第5回世界閉鎖性海域環境保全会議準備情報

#### エ 「誰でも参加?海のネット会議」の構築（地球環境基金(特別枠)助成事業）

現在、(財)国際エメックスセンタ?が有する既存のホ?ムペ?ジを活用し、閉鎖性海域の環境保全・創造のため、提案されたトピック（テ?マ）に関し、情報・意見を有する市民、NGO、研究者、政策担当者など誰もが参加でき、直接に意見交換、情報交換を可能にする「誰でも参加?海のネット会議」を構築した。

多様なセクタ?の関係者（誰でも）がある特定のトピックに関し、ホームページ上で討議（意見の書き込み、情報の掲示）を行い、意見のスレッド化を通じて、意見交換を重ね、今後の海の環境保全・創造の取り組みを提言する。

このことにより、本ネット会議をプラットフォームとして、海に思いを有する誰でもが居ながらにして時間、場所を越えて意見の発表、情報発信が可能となり、閉鎖性海域に関する環境保全活動の情報交換、海に対する意見交流を世代、地域、所属の区分なく行うことを可能にした。

#### オ 地域担当者によるエメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて人的ネットワーク構築のため、過去にエメックス会議を開催した地域に地域担当者を整備し下記活動を依頼した。

平成12年度は、平成10・11年度に引き続き米国、スウェーデン、トルコなどで活動している科学・政策委員に依頼した。

- ①地域の専門家のネットワークの形成・維持の活動
- ②環境の現況・環境教育実施状況など地域環境情報の収集・提供
- ③エメックス活動のPR

#### カ 油流出事故環境影響調査のためのガイダンスの発行

当センタ?が平成11年度に行った調査結果をもとに、油流出事故発生直後の環境影響及び油防除作業に携わるボランティア等の健康影響等について速やかに評価し、その情報を提供する等緊急時の体制の整備に資することを目的として、

- ①油の特性に応じた人体、海生生物等に対する影響の大きい物質の選定
- ②これらを適切な時間と精度で検出できる調査手法の選定
- ③調査に関連する情報の収集・整理

などの情報を体系化したガイダンスを環境庁水質保全局の監修を得て大蔵省印刷局から出版（A4判 144ページ 予価：本体1,600円（税別））した。

### (3) 普及啓発・人材育成事業

#### ア 閉鎖性海域の環境管理技術研修（国際協力事業団（JICA）委託事業）

我が国の閉鎖性海域の環境保全施策実施の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「閉鎖性海域管理技術研修」を実施した。

##### ○研修の目的

閉鎖性海域及び沿岸域の環境管理に従事する開発途上国の中堅行政担当官等が環境管理計画の策定、規制の手法、廃水処理等の技術等の総合的な環境管理技術を取得し、自国において将来活用することを目的としている。

##### ○研修期間

8月7日から10月22日

##### ○研修リーダー

京都大学工学研究科附属環境質制御研究センター 津野 洋教授

##### ○研修生

本年度は、インドネシア、フィリピン、サウディ・アラビア、タイ、トルコ、中国の6カ国、計6名を研修生として迎えた。

##### ○主な研修場所

兵庫インターナショナルセンター(HIC)（神戸市須磨区一の谷）

##### ○研修の内容

###### ①講義

環境管理、水質、廃棄物に係る基礎理論の講義

###### ②実習

排水処理・分析技術等の実習

###### ③現地見学

環境に関する研究所や漁業関係施設、排水処理施設、環境教育現場等の見学

#### イ 閉鎖性海域環境保全のための設立記念式典及び記念講演会の開催

平成12年4月1日付けで内閣総理大臣より設立許可を受けた当センターの設立記念式典及び記念講演会を約300人の参加者を得て開催した。

##### ○記念式典

###### ①開催年月日

平成12年4月27日（木）

②開催場所

兵庫県津名郡東浦町夢舞台1番地 淡路夢舞台国際会議場

③次第

挨拶：財団法人国際エメックスセンター 理事長 貝原俊民

祝辞：環境庁長官（吉田裕環境庁長官官房審議官代読）

○記念講演会

①演題

海の利用と保全を考える

②講演者

平野敏行東京大学名誉教授

ウ 土木学会地球環境委員会主催の地球環境シンポジウムに出展

土木学会地球環境委員会が主催した第8回地球環境シンポジウムに、当センターの活動を普及啓発する目的でパネル出展を行った。

○開催期間

平成12年7月6日（木）-7月7日（金） 2日間

○開催場所

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館

エ テクノ・オーシャン2000に出展

テクノオーシャンは、1986年に第1回を開催以来、我が国で唯一定期的（隔年）に開催している海洋関連の総合的な国際コンベンションで、今回は、「海洋に託す21世紀」をテーマに8回目の開催となる。テクノオーシャンは、ウォーターフロントから深海に至るまでの全ての海域を対象とし、海洋の環境保全、調査計測、資源・エネルギーの開発利用、沿岸域・海域の空間利用など、海洋に関する幅広い科学技術の利用開発について、産官学関係者が横断的に集い、フェース・ツー・フェースで情報交流する場として開催されたことから、当センターの目的にも合致するとの観点から当センターの活動を紹介する出展を行った。

○開催期間

平成12年11月9日（木）?11日（土） 3日間

○開催場所

神戸国際展示場（神戸ポートアイランド）

オ 伊勢湾シンポジウムにパネリストとして参加



伊勢湾総合対策協議会（岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市）が伊勢湾の総合的な利用と保全に向けた取り組みに資する目的で開催した「伊勢湾シンポジウム」に、当センターの活動を普及啓発する目的で菊井事務局長が、パネリストとして出席した。

○開催日

平成 13 年 1 月 19 日（金）

○開催場所

岐阜県岐阜市 長良川国際会議場

○テーマ

伊勢湾の 21 世紀を考える